

## 津幡町の神社と祭神の分析 笠谷編

宮本眞晴<sup>1</sup>河北潟湖沼研究所河北潟歴史委員会<sup>2</sup>

〒920-0267 石川県内灘町大清台302

要約：津幡町にある5つの谷のうち「笠谷」について、その流域の21の神社について調査をおこなった。それぞれの神社の沿革や祭神についての調査記録をまとめた。

キーワード：津幡町、笠谷、神社、祭神

## はじめに

津幡町には、南より萩坂谷、俱利伽羅谷、笠谷、種谷、河合谷と5つの谷がある。一昨年の萩坂谷、昨年の俱利伽羅谷に続き、今回は笠谷の神社について考察する。

## 笠谷の神社・集落・祭神・沿革

以下に支川流域ごとに神社を整理して、それぞれの集落、祭神、沿革に付いて述べる。神社名とその読み、祭神名は原則として「石川県神社誌」に拠った。また、(江)として、江戸期の各村の産物も記した。

## [倉見川流域]

## 1. 八幡神社(倉見)

旧村社。応神天皇・神功皇后・仲哀天皇・天照大神

創建年代不詳。明治6年村社に列す。もと八幡社と称したが明治30年現社名に改称。同40(41?)年宮谷「神明社」を合併する。

今春、不審火で消失。焼失前の社殿には「八幡神社」と古い「神明宮」の標額が並んで架かっていた。拝殿前には古い狛犬が1対並んでいた。

上記の標額、狛犬とも今は無い。焼失前、境内には4基の五輪塔があったが、現在不明。焼

失した社殿の中心地には現在、水輪が安置されている。境内には陽石と思われる石が2基ある。

倉見という地名は全国に存する。集落の周囲を山で囲まれ、日の出が遅い場所の意「闇見」が転じた所か。福井県三方町の「倉見」も津幡の「倉見」と似た地形である。

宮谷には「明治四年十一月建」と刻まれた石の小祠があり、町内唯一の山祭りを伝える。小祠の中には「祇園」(註1)「山神」(註2)と刻した石(裏には明和七年出村の刻)がある(明和七年は1770年)。

(江)菜種・蚕繭・楮皮(和紙の原料、コウゾの樹皮)・渋柿

註1：祇園は八坂(弥栄)の祭神で、スサノオを祀る。妻のイナダヒメは稲(農耕)の女神。スサノオはインドの祇園精舎の守護神、牛頭天王または、新羅の牛頭山の神ともいわれる疫病除けの神。

註2：山神としては普通「五十猛命」(スサノオの子・植樹の神)か「大屋都姫命」(イソタケルの妹・建築、製炭の神)である。

## 2. 八幡神社(杉瀬)

旧村社。応神天皇

創立年代不詳。明治5年村社に列す。天明三年改築の棟札を残す。拝殿左、縁の下に五輪塔

1 現 津幡町議会議員

2 連絡先 tel.076(288)2409 fax.076(288)2962



写真1. 焼失1ヶ月前の「倉見八幡神社」拝殿  
石造の狛犬と五輪塔(火・風・空輪部分)2基。  
今はない



写真2. 「倉見八幡神社」  
境内にある陰陽石？2個の内の1個

の一部を3基残す。

本村と辰(立)ノ宮の集落がある。

(江) 菜種・蚕繭

### [津幡川流域]

### 3. 岩崎神明宮(岩崎)

旧村社。応神天皇・仲哀天皇・神功皇后

創建年代不詳。明治6年村社に列す。もと「八幡社」と称した。明治40(41?)年山北の「八幡神社」に名目上合祀されたが、昭和27年分離、現社名に改称。境内に平成13年9月、バイパス建設工事のため谷内宮堤にあった春日社を遷座し、社殿左に安置。拝殿手前右の竹藪に五輪塔1基。

集落は本村と河原がある。

(江) 蚕繭・筵・縄・串柿・割木

### 4. 八幡神社(田屋)

旧村社。神功皇后・応神天皇・仲哀天皇(以上石川県神社誌)(以下津幡町史)健御名方命

創立年代不詳。明治6年村社に列す。同30年現社名に改称。同40年同字、無格社「諏訪社」を合併。

境内左後ろに五輪塔数基が並んでいるが、

風・空輪の巨大なものがある。全体ではどれくらい大きかったのだろうか。

津幡川左岸の集落は、近世末期火災を機に右岸の古屋敷集落から移転したという。光現寺があったが天正十一年(1583)越中坂に移転。

本来、田屋は「田の番小屋」の意。または、<sup>たや</sup>旅館からの転意か。中世、<sup>だいぼうず</sup>大坊主といわれた鳥越「弘願寺」の隣村であった当地には、近郷からの参詣者のための「お旅館」があったのかも・・・。

(江) 菜種・蚕繭・串柿・割木・筵<sup>むしろ</sup>

### [笠野川流域]

### 5. 大国主神社(鳥越)

旧村社。大己貴命<sup>おおなむち</sup>

創立年代不詳。明治6年村社に列す。

境内、社殿左に数基の五輪塔と町指定文化財の「宝塔」がある。宝塔の屋根の上は、<sup>そうりん</sup>多分相輪と水煙が載っていたものと思う。

集落は近世に背後の「ちょうちん山」とよばれる丘陵から南に移ったという。地名は村の東の「ほそが峰」に生息する各種の鳥が渡り過ぎることから(「温故集録」加越能文庫)とも修験道に由来するともいわれる。

(江) 蚕繭・楮皮・串柿



写真3. 宮谷の山裾にある山神様  
右【祇園】左【山神】

## 6. 八幡神社 (山北)

旧村社 . 応神天皇・仲哀天皇・神功皇后(以上神社誌)(以下河北郡誌) 経津主命・武甕槌命

創立年代不詳 . 明治6年村社に列す . 元「八幡社」と称したが明治30年現社名に改称 . 明治40年同村字蓮花寺村社「八幡社」, 同村字宮田村社「八幡社」を合祀 . 明治41年同村字岩崎村社「八幡社」を合祀 . 明治42年ツ28通称「まきの」より現在の二47へ移転 . 大正15年宮田の「八幡社」を分離 . 昭和27年岩崎の「八幡社」を分離 . (経津主命, 武甕槌命は春日神社の祭神だが, 八幡神社に合祀の記述は無い . 岩崎の八幡を合祀したとき, 同字の春日社の祭神も一緒に合祀し, 昭和27年の分祇の際, 残ったのかも… .)

旧村名「北村」. 北部丘陵に文禄三年(1594)勝田彦次右衛門銘の墓がある . 勝田家は加賀国守富樫氏の一族と伝え, 彦次右衛門の嫡男の喜多村屋彦右衛門は金沢城下の町年寄や江戸町年寄となり, 次男喜多村屋次郎兵衛家は金沢町年寄を世襲し, 家柄町人であった . (「金沢町人由緒帳」加越能文庫)

奥殿後ろに五輪塔部分1基 . 社殿右の木造撰



写真4. 鳥越「大国主神社」の宝塔・五輪塔群

社内に石仏5体 .

(江) 蚕繭・楮皮・串柿・割木

## 7. 八幡神社 (宮田)

旧村社 . 応神天皇・神功皇后・比売神

明治6年村社に列す . 明治40年山北の八幡神社に合祀 . 大正15年分離 . 非宗教法人で神社誌に記載は無い . 平成17年改築 .

「みやだ」. 「みやた」とも呼ばれる . 地名は神社の宮田の跡地に村立てしたことによるという . (「村名由来」加越能文庫) 集落入口の小祠は藤森の宮・小宮とよばれ, 当地に流れ着いたという石仏を安置 .

(江) 蚕繭・渋柿・串柿・楮皮・割木

## 8. 八幡社 (蓮花寺)

旧村社

明治40年山北の八幡神社に合祀 . 社殿はない .

地名は蓮花寺という寺があったことに由来するという . (「村名由来」加越能文庫)

(江) 蚕繭・渋柿・楮皮・串柿

## 9. 八幡社 (籠月)

旧村社 .

明治41年筋谷の笠谷神社に合祀後, 社殿は無い .

(江) 蚕繭・楮皮・柴・割木・串柿



写真 5. 山北「八幡神社」  
拝殿右摂社内石仏 5 体

現在は集落なし。

### 10. 八幡神社 (鳥屋尾)

旧村社。石川県神社誌に記載なし。

明治6年村社に列す。明治41年当社と彦太郎  
島の村社「八幡社」籠月の村社「八幡社」筋谷  
の村社「住吉社」の4社が合併し筋谷ト208に  
笠谷神社となる。同年ヨ18に移転。平成2年笠  
谷神社より分離。集落西端「かみやち」に遷座。  
「とやのお」とも呼ぶ。

(江) 蚕糸・楮皮・渋柿・串柿・柴・割木

### 11. 白山社 (大島)

旧村社。伊弉諾命・伊弉册命・菊理姫命

明治6年村社に列す。

境内には石造物は見られない。

(江) 蚕繭・串柿・楮皮・割木・杪(こずえ)・炭

### 12. 笠谷神社 (筋谷)

旧村社。健御名方命・八坂刀売命・応神天皇(以上神社誌)以後河北郡誌)仲哀天皇・神功皇后

創立年代不詳。明治6年村社に列す。明治41年同村彦太郎島村社「八幡社」同字鳥屋尾村社「八幡社」同村籠月村社「八幡社」の三社を本社「住吉社」に合祀し、「笠谷神社」と改称す。昭和21年彦太郎島「八幡社」を分祀、平成

2年鳥屋尾「八幡社」を分祀。

(江) 蚕繭・串柿・渋柿・楮皮・割木・杪

本当に高地に海・航海の神の「住吉社」があったのか。現在の笠谷神社の祭神には「底筒之男命」「中筒之男命」「上筒之男命」の住吉三神が祀られていなくて、諏訪の神「健御名方命」「八坂刀売命」がいる。諏訪神社の誤りか。

### 13. 笠野神社 (笠池ヶ原)

旧村社。手力雄命

創立年代不詳。笠野一郷十八ヶ村の惣社。延喜式内社の笠野神社に比定。集落の南部丘陵「宮のしろ」に鎮座。

社地は現在の場所ではなく、聖武天皇神龜二年(725)谷内丘にあり、淳和天皇天長年間(824~833)中山平に遷し、のち今の地へ。(加賀国式内鎮座記)

祭神は「少彦名命」(社蔵縁起)、「多力雄命」(日本惣国風土記)、「須佐乃男神」・「大己貴命」を併せ祭るといふ。(加賀国式内鎮座記)薬師の別称あり。(土人口碑・土地の人の言い伝え)久志宮とも言う。(加賀国式内鎮座記)

拝殿右奥に石造の小祠がある。集落内に3対の石仏があるが精緻な彫りである。

(江) 蚕繭・楮皮・串柿・割木

### 14. 神明宮 (彦太郎島)

旧村社。応神天皇・神功皇后・比売神

元の社名は「八幡社」で集落東部にあった。

明治41年筋谷「笠谷神社」に合祀。昭和21年分離し、集落南端の高山に遷座し、神明宮と改称。

(江) 蚕繭・楮皮・串柿・割木・炭

### [ 吉倉川流域 ]

### 15. 富士神社 (七黒)

旧村社。大山祇命

干場坂に鎮座。創立年代不詳。もと薬師社と



写真6. 大熊「甲斐崎神社」手前摂社内の石仏と陽刻の五輪塔

称した。明治6年村社に列す。

集落は本村と堂ヶ谷内からなる。

奥殿右に石造の小祠があり石仏が安置されている。その前に五輪塔の一部、2基。  
(江) 蚕繭・楮皮・赤柿・串柿・梅・割木

#### 16. 八幡神社(吉倉)

旧村社。神功皇后・応神天皇・仲哀天皇

創立年代不詳。明治6年村社に列す。明治29年「八幡社」を「八幡神社」と改称。

参道石段の途中に木造の小祠があり、石仏数体と石造の鏡がある。奥殿後ろに水輪2個が火輪の上に、隣にも水輪3個が火輪の上に載せてある。

地名は郷倉があったことによるという。(加賀志徴)

#### 17. 八幡神社(市谷)

旧村社。応神天皇・仲哀天皇・神功皇后

創立年代不詳。明治6年村社に列す。

社殿左に風化した板碑らしきものが立ち、右後ろに五輪塔の火輪部分が2個重ねてある。「市ノ谷」[一ノ谷]とも書かれた。

#### 18. 八幡神社(八ノ谷)

旧村社。誉田別命・少名彦命

創立年代不詳。明治6年村社に列す。集落南

部の「宮の谷」に鎮座。明治30年「八幡社」を「八幡神社」と改称。

境内左に摂社が2つある。明治37年、集落西端の薬師にあった無格社「少名彦社」を合祀。もう1つの摂社「小宮社(こみやしゃ)」は境内にあった大櫓を、明応年間(1492～1500)尾山御坊を修築する際、切り倒したところ、根元より出た仏像(正覚の釈迦如来像・木製の台座には斧の切り後がある)を安置する。社殿右手前に縁結びの大杉がある。

境内には赤戸室石の小祠跡があり、社殿縁の下には石造と陶製の鬼瓦がある。

#### 19. 池ヶ原神社(池ヶ原)

旧村社。応神天皇・大山咋神

創立年代不詳。明治41年村社「日吉神社」と無格社「八幡神社」を合併し現社名になる。モミ(梅)等の社叢(神社の森)は昨年(つが)の台風で倒れ(鳥居も新調)、すっかり明るくなった。

拜殿後ろに赤戸室石の小祠があり、なかには新しい地蔵が1体。右の倉庫前に仏塔(?)の一部がある。

#### 20. 甲斐(貝)崎神社(大熊)

旧村社。大禍津日命・健御名方命(以上神社誌)(以下河北郡誌)八坂刀売命・誉田別命

創立年代不詳。甲斐崎山(189m)西麓斜面に鎮座。明治6年村社に列す。明治36年同字無格社「諏訪社」を合祀。明治39年同字無格社「坊賀社」を合祀。

三州神号帳には正観音とあり、観音菩薩の幟を所蔵。旧十村役兵右衛門家の守り本尊「十一面観音」を安置したともいう(「由緒当記帳」渡辺文書)

以前は「ヲヲクマ」と訓じた。

社殿手前左には木造の摂社があり、中には石仏と五輪塔を陽刻した板碑、甲斐崎社の石製標額がある。外には五輪塔と陽石がある。

社叢は鬱蒼と茂り、「山だめ」として外浜(内灘, 七塚地方)の漁師の目標になった。

甲斐崎の地名は慶長年間(1596 ~ 1615)以後代々十村(とむら)を勤めた兵右衛門家は甲斐国の出身と伝えられ、元禄十四年(1701)六代目が能瀬村へ移転した。(「由緒等記帳控」渡辺文書)延宝元年(1673)十村兵右衛門の子伊兵衛が中心となって加賀藩の援助のもと河北潟を干拓し、潟端新村が成立した。(改作所旧記)

甲斐崎神社と集落の間の「ごぼやしき」は浄土真宗本願寺派養法寺(現金沢市)の跡という。

## 21. 八幡神社(小<sup>はちまん</sup>熊<sup>こんま</sup>)

旧村社。応神天皇

創立年代不詳。集落「大峰」に鎮座。明治6年村社に列す。明治42年上矢田「愛宕社」を合祀。昭和21年「愛宕社」を分離。村人「藤吉」が掘り出した石像「藤吉神」を合祀する。

境内には陰陽石が2個ある。

### 祭神の出自と性格

以下にこれまでに挙げた神社の、祭神の出自と性格について分析する。50音順に示し、祭神を同じくする全国の有名神社も記した。

なお、祭神は以下の4つに分類される。

天神族<sup>あまつかみ</sup>・高<sup>たか</sup>天<sup>か</sup>原<sup>まが</sup>系<sup>はら</sup>の神

地<sup>く</sup>祇<sup>に</sup>族<sup>ちかみ</sup>・出<sup>い</sup>雲<sup>ずも</sup>系<sup>も</sup>の神

天<sup>てん</sup>孫<sup>そん</sup>族<sup>ぞん</sup>・神<sup>かみ</sup>武<sup>ぶ</sup>天<sup>てん</sup>皇<sup>こう</sup>以後<sup>ご</sup>の系<sup>けい</sup>統<sup>とう</sup>

人<sup>ひと</sup>物<sup>ぶつ</sup>神<sup>かみ</sup>・上<sup>かみ</sup>記<sup>き</sup>以<sup>い</sup>外<sup>が</sup>の歴<sup>れき</sup>史<sup>し</sup>上<sup>じやう</sup>の<sup>の</sup>人<sup>ひと</sup>物<sup>ぶつ</sup>

## 1. 天<sup>あまてらすのおおかみ</sup>照<sup>てる</sup>大<sup>おほ</sup>神<sup>かみ</sup>

倉見・八幡神社(明治末に合祀された宮谷「神明社」の祭神であったもの)

天神族・父・イザナギ。皇室の祖先とされている。死んだ妻イザナミを尋ねて降った黄泉の国から逃げ帰り、筑紫(九州)の日向(宮崎)の橋之小門の安波岐原で禊をした際、左目を洗った時、光と共に生まれた美しい女神。高天

原の支配者。

別称・天<sup>あまてらすのおおかみ</sup>照<sup>てる</sup>大<sup>おほ</sup>御<sup>み</sup>神<sup>かみ</sup>, 天<sup>あまてらすのおおかみ</sup>照<sup>てる</sup>皇<sup>すめ</sup>大<sup>おほ</sup>御<sup>み</sup>神<sup>かみ</sup>。

太陽の神・養蚕の神・織物の神・国家安泰・産業繁栄の神

・三重県伊勢市・伊勢神宮・内宮

## 2. 伊<sup>いざなぎのみこと</sup>弉<sup>さ</sup>諾<sup>だ</sup>命<sup>のみこと</sup>

大<sup>おほ</sup>皇<sup>こう</sup>・白<sup>しろ</sup>山<sup>やま</sup>社

天神族・日本神話の始めに登場する別天神から数えて七代目に出現した夫婦神の男神。妻のイザナミと共に日本の国を生んだ。

夫婦ともに国家安泰・子孫繁栄・五穀豊穡・家内安全の神

## 3. 伊<sup>いざなみのみこと</sup>弉<sup>さ</sup>冊<sup>せき</sup>命<sup>のみこと</sup>

大<sup>おほ</sup>皇<sup>こう</sup>・白<sup>しろ</sup>山<sup>やま</sup>社

天神族・夫・イザナギと共に数多くの神々を産んだが、最後に火の神「伽具土・軻遇突智」を産んで陰部を火傷し死に、黄泉の国へ下る。イザナギ・イザナミを祀る神社 滋賀県多賀町・多賀大社

## 4. 応<sup>おうじんてんのう</sup>神<sup>かみ</sup>天<sup>てん</sup>皇<sup>こう</sup>

倉見・八幡神社, 杉瀬・八幡神社, 岩崎・岩崎神明宮, 田屋・八幡神社, 山北・八幡神社, 宮田・八幡神社, 筋谷・笠谷神社, 彦太郎島・神明宮, 吉倉・八幡神社, 市谷・八幡神社, 小<sup>こ</sup>熊<sup>くま</sup>・八幡神社, 池<sup>いけ</sup>ヶ<sup>が</sup>原<sup>はら</sup>・池<sup>いけ</sup>ヶ<sup>が</sup>原<sup>はら</sup>神<sup>かみ</sup>社

天孫族・ヤマトタケルの息子である第14代仲哀天皇と神功皇后の子。別称・誉<sup>ほんだわけのみこと</sup>田<sup>た</sup>別<sup>べつ</sup>命<sup>のみこと</sup>・品<sup>ほん</sup>陀<sup>だ</sup>和<sup>わ</sup>氣<sup>き</sup>命<sup>のみこと</sup>。第15代天皇になる。百濟, 新羅から多数の学者や技術者を招いた。神功皇后と一緒に(時には武内宿禰・仲哀天皇とも一緒に, まれには仁徳天皇も)全国2万5千社の八幡神社の祭神。稻荷神社次いで2番目に多い。鳩は八幡の神の使い。

・文武の神・交通安全・開拓・航海の神。

・大分県宇佐市・宇佐八幡宮, 京都府八幡市・

岩清水八幡宮, 神奈川県鎌倉市・鶴岡八幡宮

#### おこなむちのみこと

### 5. 大己貴命

鳥越・大国主神社, 笠池ヶ原・笠野神社

地祇族おこなむちのかみ・大穴牟遲神とも書く。別称・八千矛神やちほこのかみ・大物主命など。大黒様のこと。スサノオの六世の孫とも言われる。艶福家で越後・糸魚川の沼河ぬまかわ(ぬまかわ・ぬなかわ)ひめ比売命とも結ばれている。

- ・国内平定・農業・医薬・温泉・漁業・縁結び・歌舞音曲と窓口は広い。
- ・オオクニヌシを祀る神社 鳥根県大社町・出雲大社
- ・オオモノヌシを祀る神社 奈良県桜井市・大神(おおみわ)神社
- ・オオナムチを祀る神社 羽咋市・気多大社, 札幌市・北海道神宮

#### おおまがつひのみこと

### 6. 大禍津日命

大熊・甲斐崎神社

天神族・イザナギが黄泉の国のイザナミを訪ね、この世に戻ってきた際、筑紫の日向の橘の小門の安波岐原で黄泉の国の穢れを洗い落とすため禊みそぎをした時、水中に洗い落とされた穢れから生まれた神。

マガツは吉凶の「凶」を表わす。正しく祀れば凶事の災難から守護する神。

- ・災厄除け・招福の神。
- ・愛知県津島市・津島神社 津幡町津幡・太白山神社

#### おおやまくいのかみ

### 7. 大山咋神

池ヶ原・池ヶ原神社

地祇族やますえのおおぬしのかみ・別名を山末之大主神といい、山裾さんすうの神。「山王さん」と呼ばれている。妻は、京都の賀茂御祖神社(下鴨神社のこと)の祭神の建玉依比売命かものみおや。古事記に「大山咋神は日枝山ひえのやま(比叡山のこと)に坐いまします」とある。日枝は日吉とも書く。猿は日吉のお使い。

・土木建築・酒造の神。

- ・東京都千代田区永田町・日枝神社, 滋賀県大津市・日吉大社, 京都市西京区嵐山宮町・松尾大社

#### おおよみのみこと

### 8. 大山祇命

七黒・富士神社

天神族・イザナギ・イザナミの子。各地の山の神の総本家。コノハナサクヤヒメ(富士山浅間神社の祭神)の父。孫のクシナダヒメはスサノオと結婚。

- ・酒造・国土安泰・武門の守護神・商売繁盛。
- ・静岡県富士宮市せんげん・浅間神社, 神奈川県伊勢原市・大山阿夫利神社, 愛媛県越智郡大三島町・大山祇神社

#### くくりひめのみこと

### 9. 菊理姫命

大島・白山社

地祇族・白山比咩神のこと。全国には3000社を超える「白山神社」があるが、「古事記」には全く登場せず、「日本書紀」に一箇所だけ登場する女神。古代東北アジアのシャーマン(巫女・みこ)の系統の説が有力。「くくる」は「水くくる」で「禊みそぎ」の意。死霊の宣託を語ったイタコの如き女神。古代アジアのツングース系民族の「白山部」という支族の中で生まれた「白頭山, 太白山」信仰が日本に伝わったとの説がある。

イザナギ・イザナミとの三神が白山神社の祭神。

- ・五穀豊穰・生業繁盛・開運招福
- ・白山市鶴来町・白山比咩神社

#### じんくうこうごう

### 10. 神功皇后

倉見・八幡神社, 岩崎・岩崎神明宮, 田屋・八幡神社, 山北・八幡神社, 宮田・八幡神社, 筋谷・笠谷神社, 彦太郎畠・神明宮, 吉倉・八幡神社, 市谷・八幡神社

地祇族・別称おきながたらし・息長帯姫命おきながたらし・気長足姫尊。4

- 応神天皇の母・夫の16仲哀天皇とクマソを征伐に向かう。夫は敵の矢で死亡。夫に代りクマソを征伐。余勢を駆って朝鮮の新羅も征伐。凱戦後に生まれたのが応神天皇。神仏習合時代には「聖母大菩薩」と尊称された。聖母を祀った神社は九州地方に多い。聖母宮、聖母八幡宮と称す。地元では「しょうも」とか「しょも」と呼んでいる。

16世紀、この地方に抵抗無くキリスト教がいち早く広まった一因かもしれない。

- ・子授け・縁結び・安産・商売繁盛・厄除けの神。
- ・鎌倉市・鶴岡八幡宮、敦賀市・気比神宮

### 11. 少名彦命

八ノ谷・八幡神社

天神族・・別称・少彦名命・少那毘古名神。父・神産靈日神。オオクニヌシと二人で国造りに励んだ小さな神。「アメノカガミブネ」に乗って光り輝きながら現れた。オオクニヌシが病気になった時、温泉の湯を運び入浴させ、治癒した。この温泉は道後温泉とも別府温泉とも言われている。温泉地にはこの神を祀る神社が多い。神仏習合時代は「薬師」としても尊崇された。

- ・温泉・医薬・国土開発の神。
- ・横浜市緑区・医薬神社、大阪市東区道修町・少彦名神社

### 12. 須佐乃男神

笠池ケ原・笠野神社

地祇族・イザナミが黄泉の国から帰り、ミソギをした時、鼻から生まれた。乱暴が過ぎたので、怒った姉のアマテラスが天岩戸に隠れてしまい、高天原から追放された「荒ぶる神」。出雲へ降臨し、ヤマタノオロチを退治した英雄。

- ・農神・疫病送りの神。
- ・名古屋市・熱田神宮、京都市東山区・八坂神社

### 13. 武甕槌命

山北・八幡神社

地祇族・妻イザナミが火の神カグツチを生んで火傷で死んだ時、怒ったイザナギは十拳剣でカグツチの首を斬った。その際剣の先についた血が石の上に滴り落ちた時に生まれた神。建御雷之男神とも書く。タケは「猛々しい」御雷は「神鳴り」である。18経津主命と同神とも言われる。

高天原から出雲へ降臨し、オオクニヌシに国譲りを迫った神。タケミカツチ、フツヌシ、アメノコヤネ、ヒメガミの四神が春日神社の祭神。鹿は春日のお使い。

- ・武運長久の神。
- ・茨城県鹿島市・鹿島神宮、奈良市春日野町・春日大社

### 14. 健甕名命

田屋・八幡神社、筋谷・笠谷神社、大熊・甲斐崎神社

地祇族・妻・19八坂刀売命と共に全国の諏訪神社の祭神。父・オオクニヌシ。母・ヌナカワヒメ。高天原から降ってきた13タケミカツチに国譲りを断り、力較べに負け、科野(信濃)の洲羽(諏訪)まで追い詰められた神。ミナカタ(水湯)は諏訪湖を意味すると思われる。

- ・狩猟・農耕神。
- ・軍神・五穀豊穰の神。
- ・長野県諏訪市・諏訪大社上社

### 15. 手力雄命

笠池ケ原・笠野神社

天神族・「手」は天岩戸から太陽神アマテラスの手をとって、外へ導いたことによる。

「天上界で最も手の力が強い男」の意。多力雄命ともか書く。岩戸を九州から長野の戸隠まで放り投げた。立山信仰の神で、不動明王になぞらえられる。

- ・技芸上達・五穀豊穰・開運招福・力の神。



・長野県戸隠村・戸隠神社 富山県立山町・雄山神社

#### 16. ちゅうあいてんのう 仲哀天皇

倉見・八幡神社, 岩崎・岩崎神明宮, 田屋・八幡神社, 山北・八幡神社, 筋谷・笠谷神社, 吉倉・八幡神社, 市谷・八幡神社

天孫族・ヤマトタケルの子・10神功皇后の夫・4 - 応神天皇の父・父の御陵の堀に浮かべるため, 白鳥を全国から集めた・越の国から4隻(羽)献上・

・八幡神社の祭神・

#### 17. ひめのかみ 比売神

宮田・八幡神社, 彦太郎畠・神明宮

祭神の妻の場合, 特に名を書かずにヒメノカミと称することが多い・八幡神社の場合, 7オオヤマクイの妻タマヨリヒメであるとも言われている・

#### 18. ふつぬしのみこと 経津主命

山北・八幡神社

古事記では, 13タケミカヅチと同神とも言われているが, 日本書紀では別神としている・春日神社の祭神・

・勝運・国家鎮護の神・

・千葉県佐原市・香取神宮

#### 4 - ほんだわけのみこと 誉田別命

大熊・甲斐崎神社(坊賀社の祭神であるう), ハノ谷・八幡神社

応神天皇の別称

#### 19. やさかたのみこと 八坂刀売命

筋谷・笠谷神社, 大熊・甲斐崎神社  
地祇族・14タケミナカタの配偶神・

・長野県下諏訪町・諏訪大社下社

以上, 笠谷には19柱の神々が祀られている・

## 津幡・笠谷の式内社

次に, 笠谷に存する式内社について記す・

今回は神社の考察であるが, 笠谷には長享二年(1488)一向一揆で, 高尾城に加賀国守護の富樫政親を攻めた大坊主鳥越弘願寺があった・高尾城を攻めた弘願寺の軍勢の数を記したのを見たことは無いが, 他の寺, 豪族とともに転戦している・それだけの軍勢を配することが出来る勢力であった・

また, 笠池ケ原には式内社の笠野神社に比定される「笠野神社」がある・笠池ケ原は文明年間(1469~1486)蓮如証人が北陸巡錫のおり, 説教場を建立した地でもある・現代の感覚で考えると, 何故この地に神道・仏教両方の「聖地」があったのかを考えると, 不思議な「縁」を覚える・

加賀の式内社は, 江沼郡に十一座, 能美郡に八座, 石川郡に十座, 加賀郡(現, 河北郡・加賀郡は室町期ごろから河北郡とよばれるようになった・河は浅野川を指す)に十三座となっている・以下に, 加賀郡十三座の式内社とそれぞれに比定される神社を示す・比定される神社が複数の場合, すべてを記した・

註: 式内社とはえんぎ延喜格式に記載された神社のこと・延喜格式は, 日本の格式編集の最後のもの・延喜格式は, 延喜五年(905)醍醐天皇の命により, 左大臣藤原時平が主宰し編集を始めた・えんちよう延長五年(927)50巻完成・

内容は宮中行事, 官庁の事務制度, 神祇(じんぎ)に関することなど・最初の10巻は神祇制度について記載してあり, 巻8は祝詞(のりと), 巻9, 10は神名帳で, 全国の官社3,132座(2,861社)を列記してある・それに列する神社は「式内社」とよばれ, 社格を権威付けられている・

#### おばま 小濱神社

おばま 小濱神社 河北郡内灘町大根布

**野間神社**

野間神社 金沢市玉鉾町  
野間神社 金沢市小坂町東（旧河北郡小坂村）

**三輪神社**

石浦神社 金沢市本多町3丁目  
三輪神社 河北郡津幡町北中条

**賀茂神社**

賀茂神社 かほく市横山

**神田神社**

少名彦神社 金沢市田上本町（旧河北郡浅川村）  
神田神社 金沢市神田1丁目

**下野間神社**

下野間神社 金沢市乙丸町（旧河北郡小坂村）

**郡家神社**

郡家神社 金沢市吉原町（旧河北郡森本村）  
日吉神社 金沢市三池町（旧河北郡小坂村）  
郡家神社 金沢市鈴見町（旧河北郡浅川村）

**須岐神社**

須岐神社 金沢市東蚊爪町（旧河北郡川北村）

**野蚊神社**

野蚊神社 金沢市神谷内町（旧河北郡小坂村）

**波自加弥神社**

波自加弥神社 金沢市八幡町（旧河北郡花園村）

**大野湊神社**

大野湊神社 金沢市寺中町

**野蚊神社**

金山彦神社 金沢市西蚊爪町  
笠野神社 河北郡津幡町刈安  
野蚊神社 金沢市琴町（旧河北郡三谷村）  
野蚊神社 金沢市滝下町（旧河北郡三谷村）

**笠野神社**

笠野神社 河北郡津幡町笠池ヶ原

清水八幡神社 河北郡津幡町清水

おわりに

笠谷地区の神社で特徴的なのは、「八幡系」が多く、「白山系」が少ないこと（大畠・白山神社のみ）。

稲作の神の「稻荷系」（倉稻魂命）と「水神」（罔象女神）が全くないこと。これは稲作が、灌漑が容易な山間部から発展したことを考えると不思議である。

当然ではあるが、河北潟沿岸にある住吉神社・宗像神社・綿津見神社など海神は無い。浄土真宗が普及する前、この地方は石動山系の真言宗か、白山系の天台宗の地であった。その頃の墓は五輪塔であり、明治期に神社境内に集められた。笠谷は俱利伽羅谷・種谷と同様にその数は多い。（萩坂谷は少なく、旧津幡4町には津幡太白山神社に1基空輪があるのみ）清浄を旨とする神社境内に、穢れの象徴の五輪塔（墓石）がある。何故だろうか。

引用文献

- 「石川県神社誌」 昭和51年（1976）石川県神社庁
- 「石川県河北郡誌」 大正9（1921）石川県河北郡役所
- 「日本の神々の事典」 平成9（1997）学習研究社
- 「神道の本」 平成4（1992）学習研究社
- 「日本の神々を知る事典」 平成7（1995）阿部正路 日本文芸社
- 「日本多神教の風土」 平成9（1997）久保田展弘 PHP 研究所
- 「日本歴史地名大系」第一七巻（石川県の地名）平成3（1991）平凡社